

## 「2016年ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部4年 (伊藤勇太)

- ① 私は本プログラムを通して留学したいという思いをより一層強くした。なぜならベトナムと日本では環境や人々の価値観が大きく異なっていたため、異文化交流という観点からは非常に興味深く、今後もこのような異文化体験を行いたいと考えているからである。例えば環境面では、公共交通機関が未発達なため、移動の手段が主にバイクとなっており、おびたしい数のバイクをみながら道路を横断したり毎日の交通手段がタクシーであったりした点に日本との違いを感じた。また、ベトナム人は家族のきずなを非常に大切にしており、自己紹介の中で家族構成の話をしたり、ベトナム人の家に伺った時に家族総出で出迎えていただいたりした点に価値観における相違点を感じた。派遣先大学での学習については、ベトナム語や文化についての学習がメインだったため、私の専攻分野である経済学とは直接的な関係がなく本プログラムが私の大学での学習に大きく影響を及ぼすことはなかったが、今後経済学を海外の大学で勉強する機会があれば今回の学習成果をぜひ活用したいという気持ちを強固にすることができた。国際理解の意欲もほかの項目と同様に強めていきたいと考えている。留学前はあらゆる事象を無意識のうちに自国の尺度で計っていたことに気づかされた。ベトナムでは一度計画されたスケジュールが柔軟に変更されることが多く、スケジュールに基本的に変更はないという日本の慣習に無意識に縛られていたため、ベトナムではスケジュールの変更に当初戸惑ってしまった。計画の順守性の差に違いがあったように感じたものの、どちらが良い悪いではなく単に慣習の違いとして受け入れようと努めたのもよい異文化経験になったと思う。
- ② ベトナムでは現地の大学生と日本語でコミュニケーションを取る機会が多かったが、日本語のレベルは学生によって千差万別であったため、日本語学習歴がまだ浅い学生に対してはいかに難しい言葉を使わず会話をするか考慮するときも多かった。その一方でベトナム語を使う機会を自らあまり作り出せず、ベトナム語を学ぶという目的には反していたため、今回の留学の反省点としたい。
- ③ 本プログラムはベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学と外国語大学の二大学でそれぞれ一週間、ベトナム語講座やベトナムの文化にまつわる特別講座を受講したり、現地の学生が受ける日本語の授業に参加したりした。またハノイ近郊の村や世界自然遺産地への訪問などフィールドトリップも用意されており、ベトナムの農村や自然景観などを知るよい機会にもなった。
- ④ 進路への影響は現在のところない。なぜなら私は本プログラム以前に就職活動を終え就職先が決定しており、入社予定の会社はベトナムで事業を行っていないため入社後もベトナムにかかわる機会はないからである。しかし今後同企業がベトナムへの進出を果たすならば本プログラムの経験を活かしてベトナム事業の一員として貢献したいという思いを抱いている。